

近代金融業の幕開け

～唐津銀行・唐津信用金庫など～

現在佐賀県内金融の中心をなす株式会社佐賀銀行、その成立の大きな母体となったのが、「唐津銀行」である。その設立は明治18年10月。当時の唐津は海外貿易を盛んにしなければならなかった時期にあったにも関わらず、郷土に根を張る金融機関もなかった。これより数年遡る明治15年には佐賀県内初の私立銀行として伊万里銀行が設立されており、当時の唐津の有力者達は大きな刺激を受けていたと伝えられている。この唐津銀行設立に大きな役割を果たしたのが、漁民救済のため組織された「魚会舎」の金融部門再興を成し遂げた功績を持つ「大島小太郎」である。大島は旧藩時代の御用商人や町内の大商人に呼びかけ銀行設立の動きを具現化、三省銀行唐津支店の営業を譲り受け、魚会舎の貸金部門を基に県内3番目の私立銀行として唐津銀行を設立した。初代頭取には大島小太郎が就任、当時の年齢は弱冠26歳だった。

当時の金融界は多くの私立銀行が乱立し興亡を繰り返す動乱の時代、その中であって唐津銀行は、明治23年に日本銀行代理店の指定を受けて信用と箔を付け順調に業務を拡大し、唐津の商業の発展に大きな役割を果たした。明治45年には本店を移転、工学博士辰野金吾監修のもとに竣工されたその建物は、明治を代表する華麗な面影をも現在に伝え、現在も郷土唐津のシンボルとなっている。

唐津銀行はその後も、多くの私立銀行を吸収合併して業務を拡大、大正14年に佐賀市内3大銀行に数えられていた栄銀行を吸収合併し、昭和6年には長年のライバルであった西海商業銀行との合併に踏み切り名前を「佐賀中央銀行」と変え県内を代表する銀行となるも、引き続き本店を唐津に置き営業を行った。

昭和30年7月、唐津銀行を前身とする佐賀中央銀行は、県内銀行のもう一方の雄「佐賀興業銀行」と合併、現在の株式会社佐賀銀行を新立させた。唐津銀行の先取の気鋭は、現在も佐賀銀行に引き継がれている。

なお、現在唐津市内に本店を置く金融機関に「唐津信用金庫」がある。昭和4年発足の唐津町信用販売購買組合を前身とし、昭和26年10月に創立された。現在大名小路に本店を構え、「親しみ・信頼・確かな未来」を経営理念に、地元密着の企業活動を展開している。

◎エピソード・伝承・うんちく など

大島小太郎は辰野金吾と同じく、唐津藩の英学校「耐恒寮」で高橋是清の教えを受けていた。

分野

産業

◎地図・写真・統計資料など



大島小太郎頭取
(宮島醤油HPより)



創立当時の唐津銀行本店



明治45年 唐津銀行本店(本町)
(唐津市近代図書館より)

◎引用・参考文献(出典)

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html